

書きそんじハガキ・キャンペーン2018 手引き



<ご確認いただきたい点>

- ハガキを切手に交換し、ご送付お願いします。
- 報告書と掲載誌（新聞や市報など）のご提出をお願いします。
- 昨年度制作したDVDおよび教材も引き続きご活用いただけます。P5をご参照いただき、適宜ダウンロードをお願いします。
- 事務経費（助成金）3,000円は2018年3月末までにお振込みいたします。



108万枚（約5,076万円の募金相当）達成！



昨年の書きそんじハガキ・キャンペーンも、地域ユネスコ協会の皆さまから多大なるご協力をいただきました。2016年12月～2017年5月の6か月間に集まった約97万枚の書きそんじハガキをはじめとする「タンス遺産」のうち、全体の半分以上の約55万枚（2,585万円相当）がユネスコ協会からのご提供でした。また年間では、約108万枚が寄せられました。

今年も書きそんじハガキ・キャンペーン応援キャラクター「書きそんじろー」をはじめとするタンス遺産3兄弟は、皆さまから大変ご好評をいただき、キャンペーンを盛り上げていきます。

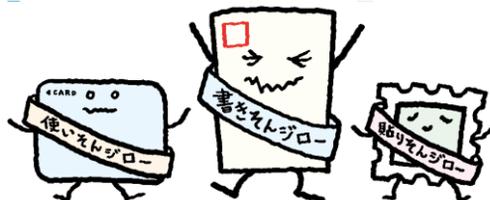
1989年に開始した世界寺子屋運動では、これまでに約130万人の人々が寺子屋で学ぶことができました。しかし、世界には、未だに学校に行けない子ども約6,100万人、読み書きできない大人(15才以上)は7億5,000万人もいます。

平和な希望の未来を拓くために必要なのは教育です。世界を平和に変えていくために、今年もユネスコ会員みんなで力を合わせ、書きそんじハガキ回収に取り組みましょう！

目次

	ページ
1. 概要.....	2
① スケジュール	
② 今年のキャンペーンについて	
③ グッズの使用法	
2. 昨年キャンペーンのご報告.....	6
① 昨年度のご報告	
② 寺子屋からのお礼の手紙	
3. ハガキを回収したら.....	9
【重要】 日ユ協連への送付方法とお願い	
4. 提出をお願いしたい書類.....	10
※集まったハガキと一緒に送付お願いします。	
資料1 報告書 P10	
資料2 感謝状申込書 P11	
5. 書きそんじハガキキャンペーンQ&A.....	12
6. ご参考	
① 書きそんじハガキを多く集めるためのコツ	
② 南三陸の森 希望のポスト ～継続的に書きそんじハガキキャンペーンにご協力いただくために～	
③ 寺子屋リーフレット制作プロジェクト	

ぼくたちは書きそんじロー、貼りそんじロー、
使いそんじロー。3人あわせてタンス遺産3兄弟。
今年も書きそんじハガキキャンペーンを盛り上
げていくよ。みなさんの書きそんじハガキや未
使用切手、プリペイドカード待ってまーす。



「プリペイドカード」「書きそんじハガキ」「未使用切手」

タンス遺産3兄弟

1. キャンペーン概要 ①スケジュール

2017年

■11月1日 年賀状発売

■12月1日～

書きそんじハガキ強化キャンペーン開始

お申込みいただきましたユネスコ協会に事務経費（助成金）3,000円をお振込みします。

地域の広報誌や学校、公共施設、回覧板などで参加を広く呼びかけましょう。

学校や公共施設など、ご協力いただける方々にチラシやポスターなどを配布。

新聞やマスコミなどの報道関係者に情報を流してもらいましょう。



■12月中旬～1月初旬

プレスリリースを流す

2018年

■1月14日 お年玉付き年賀ハガキ、抽選発表！

■2月以降

ハガキを切手にかえて、日ユ協連に送付する。

あわせて、実施報告書（P10）、感謝状申込書（P11）、新聞や市報への掲載誌を同封お願いします。

抽選発表後は、回収の狙い目です。この日前後に余ったハガキ回収の呼びかけを新聞に掲載されると効果的です。

1,000円切手に交換をお願いします。

報告書等のご提出をお願いいたします。

■5月31日 報告書の〆切
書きそんじハガキ強化キャンペーン終了



日ユ協連への送付方法・注意点については、P18～21をご参照ください。

1. キャンペーン概要

②今年のキャンペーン

目標:2018年5月末までに110万枚

アフガニスタン

高い非識字率（農村女性は99%の地域も）
いまだ紛争・テロが続く

<2018年>
寺子屋1棟(前年の継続)
識字など学習者 975人
教員等能力開発 100人

ネパール

最低カーストの底上げ
不利な立場の女性支援

<2018年>
寺子屋1棟(前年の継続)
識字など学習者 2,500人
教員等能力開発 120人

カンボジア

農村と都会の格差拡大
取り残された人びと

<2018年>
寺子屋1棟
識字など 1,200人・教員等能力開発 520人

ミャンマー

高い中途退学率
病気や犯罪のリスクにさらされる若者たち

<2018年>
識字など 480人・教員等能力開発 200人

2018年度は、寺子屋3棟 約 6,000人に学びのチャンスを！

例：寺子屋建設費 アフガン約720万円、カンボジア約500万円

(※運営、人件費を含まない実費のみの費用です。)

- 未使用切手
- プリペイドカード(QUOカード、図書カードなど)
- 図書券
- 収入印紙
- 各種金券(おこめ券、旅行券、株主優待券、その他の商品券)

書きそんじハガキ



未使用切手



プリペイドカード



今回のキャンペーンでは、昨年に引き続き、ハガキ以外にも切手やプリペイドカードも積極的に集めてまいりますので、ぜひ呼びかけをお願いします。

1. キャンペーン概要

③グッズの使用法

今年のキャンペーンでは、以下3点をご用意しております。

1) ポスター

A2タイプの大きさです。



協会名、連絡先、住所をご記入
いただくスペースです。

2) 回収ボックス

組み立ててお使いいただける紙製の
ボックスです。



3) チラシ(封筒型)

チラシを兼ねた封筒になっております。



「書きそんじハガキ・キャンペーン2018 手引き」、感謝状申込書、昨年のキャンペーンの報告、実施報告書・アンケートは、ホームページ(会員ページ)からダウンロード可能ですので、ご活用ください。

<http://unesco.or.jp/support/member/>

※11月中旬頃からダウンロード可能です

1. キャンペーン概要

④ 昨年のグッズ（映像・教材）

昨年のキャンペーンで制作した「映像」「教材」は、当連盟ホームページからダウンロードできます。引き続き、ご活用ください。

<http://www.unesco.or.jp/terakoya/kakisonji2017/>

<http://www.unesco.or.jp/terakoya/kakisonji2018/>

2017年12月15日まで

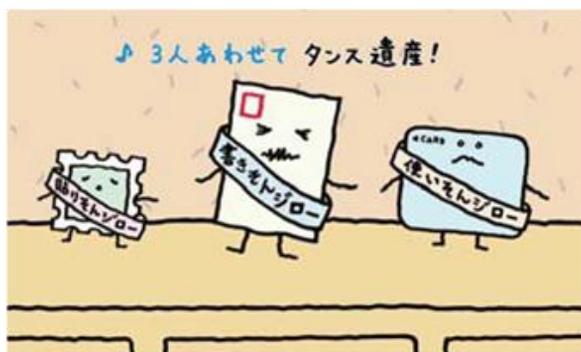
※詳しくはお問い合わせ

2017年12月15日から(予定)

合わせてください

【キャンペーン応援キャラクターCM】

書きそんじハガキキャンペーン応援キャラクター“タンス遺産3兄弟”が登場するCMです。(60秒)



書きそんじハガキの使われ方(寺子屋現地の情報)もご紹介しております。



※上記CM画像は昨年度版です。

【書きそんじハガキキャンペーン教材】

“書きそんじハガキがどのように使われているのか”
“寺子屋ってどんなところなのか”
といった質問を協力者の方からよく聞きます。

そのような質問にお答えする教材(説明資料)を制作しました。寺子屋の最新情報も載せています。
4)のタンス遺産ダンスムービーとセットでお使いいただけます。

出前授業でもお使いいただけるように、写真を大きくし、シナリオをつけましたので、誰でも説明することができます。



出前授業で放映



イベントで放映

学校内、市役所内や、地元のケーブルテレビなどで放映していただくなどして、ぜひ皆さんにお知らせください。

■ 昨年キャンペーンのご報告

皆さまからの書きそんじハガキで、2016年度もアフガニスタン、カンボジア、ネパールの3カ国で様々な活動を行うことができました。



カンボジア

3軒の寺子屋がいよいよ自立運営へ

シェムリアップ州のチョンクニア、プレイクロッチ、コックスロックの各寺子屋は、運営委員会がきちんと機能し、識字支援が終わるなどの条件を満たし、2017年度から支援を“卒業”して自立運営に移行しました。チョンクニア寺子屋では、貧困層の女性の職業訓練として始まったホテイアオイ製品作りは、作り手の女性たちのアイデアで新しい商品が毎年生み出され、いまでは村の発展を支えています。



ホテイアオイの新品・椅子

16軒目「ポングロ・クラオム寺子屋」完成

シェムリアップ州チクライン郡ポングロ・クラオムコミュニティに、16件目となる寺子屋が完成しました。2017年3月に約600人の村人が集まり、開所式を行いました。



寺子屋卒業生が学び続けるサポートを

小学校を中途退学した児童向けに寺子屋で行う「復学支援クラス」を卒業した子どもたちが、公立の中学校でさらに学び続けられるよう、学用品や制服支給などの進学支援を行っています。2016年度に中学校に進学した人数は149人になり、学び続ける環境をサポートしています。



中学校で学ぶ“寺子屋卒業生”たち

各教育プログラム・収入向上活動の実施

15歳以上を対象とした識字クラスは490人が参加しました。将来の非識字者を出さないことを目的とした「復学支援クラス」では234人が学び、さらに小学校中途退学予防のための「幼稚園クラス」は193人が参加しました。収入向上活動では約350家庭の人びとが、手工芸品作りなどの職業訓練を受けたり、小口融資を受けて仕事を始めたりすることが出来ました。





アフガニスタン寺子屋プロジェクト

寺子屋 (CLC) の設立・建設

カブールから北に25キロにあるミルバチャコット郡で1軒の寺子屋建設を進めています。郡内の5万人のうち約1万8千人が非識字者とされています。

2017年度に完成予定である寺子屋の建設は8割程度進んでいます。2017年度11月中の完成を見込んでいます。

建物の完成後は、地域の人びとによるボランティアの寺子屋運営委員会の組織化や識字クラス・職業訓練を開始する予定です。



建設中の寺子屋 (2017年3月時点)



完成に近づいている寺子屋 (2017年10月時点)

30年以上にわたる戦争により学校や教育システムが破壊されたアフガニスタンでは、幼少期に学校がなかったり、学校に通うことを禁じられたりしたため、字の読み書きができないまま大人になった人びとがたくさんいます。

特に農村部の女性のうち100人に数人程度しか読み書きができないといわれています。2016年度は、カブール近郊とバーミヤンを中心に450人が9カ月の識字クラスを修了し、基礎的なダリ語の能力を身に付けることができました。

また、裁縫クラス、刺繍クラス、革製品づくりのクラスなど地域の収入に結び付く技術研修を237人が受講しました。

ほかにも、識字クラスの教員研修への教授法の研修や寺子屋運営委員への運営研修などの能力開発も実施しました。



寺子屋で実施された女性たちのための識字クラス



識字クラスの卒業試験

識字クラスの実施と教員等能力開発

30年以上にわたる戦争により学校や教育システムが破壊されたアフガニスタン。成人識字率は32%しかありません。



ネパール寺子屋プロジェクト

寺子屋 (CLC) の設立・建設

2016年度は、2015年のネパール中部（ゴルカ）地震で建物被害を受けた寺子屋1軒の再建をネパール東部のラメチャップ郡で進めています。また、外部支援によってルンビニで1軒新しい寺子屋が完成しました。ほかに、震源に近いゴルカ郡の被災した寺子屋の再建が進められています。



完成したマシナ寺子屋（ルンビニ）

中級識字クラスの実施

2016年度は、4ヵ月間の中級識字クラスを行い、1,622人が卒業することができました。識字クラスでは、ネパール語の読み書きだけでなく、フォローアップを目的とし、中級のネパール語の読み書き・計算だけでなく、公衆衛生や女性の権利などについても学びました。クラスの開始前には、識字教員への教授法の研修も行い、識字クラスの質の向上にも努めました。



寺子屋で実施された女性たちのための識字クラス

小学校クラスの実施

カースト制度の最下層であるダリット、女子またイスラム教徒など教育の機会がなかった子どもや小学校を中途退学した子どもを対象とした小学校クラスを実施しました。

2016年度は、26クラスで510人が小学校クラスでネパール語、英語、算数、社会、理科の5教科を学びました。クラスは寺子屋のほかに、イスラム教の学校であるマドラサや民家でも行われています。

ネパール寺子屋プロジェクトでは、識字クラスや小学校クラスの開始前には、教員への研修を実施しています。ほかにも、寺子屋を運営するボランティアの運営委員への年間計画策定や会計についての研修も実施しました。



マドラサ（イスラム教の学校）で実施された小学校クラス



寺子屋で実施された小学校クラス

■ 昨年キャンペーンのご報告

カンボジアとアフガニスタンの寺子屋より、書きそんじハガキにご協力して下さった皆様へのお礼のメッセージをお届けします。

カンボジアより

寺子屋の「復学支援クラス」を卒業して中学校に進学した生徒と、「識字クラス」で学んだ男性からのメッセージ



「村にできた寺子屋のおかげで、小学校の勉強を終えて、中学校に入ることができました。とても嬉しいです。」

「中学校では友達が増えて、面白い科目もあります。もっと勉強を頑張って、大学を出て、村に戻って発展に貢献したいです。」

「皆さん、私に友達との出会いと、チャンスをくださってありがとうございます。」

サムナンさん(13歳)

「識字クラスのことは先生から聞いてすぐに参加を決めました。生活に絶対に必要だったからです。」

「クラスはとても気に入りました。先生が良くて分かりやすかったです。時間は夜なので、収穫の忙しい時期でも、仕事を終わってから参加できたのも良かったです。」

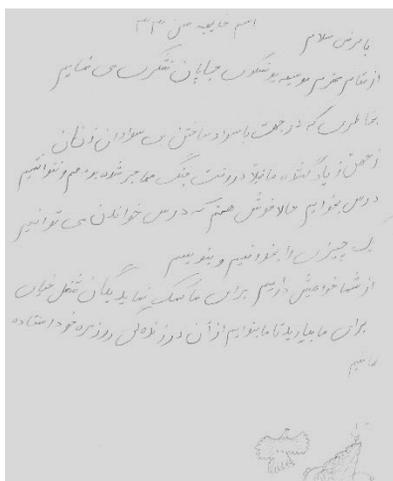
「識字者になって、自分に自信を持ってました。あまり知らない町に行っても、看板が読めて、自分がどこにいるか分かるからです。」

ヴィーさん(38歳)



アフガニスタンより

カブールの寺子屋の識字クラスで学ぶ女性からの直筆メッセージ



「学ぶ機会を提供してくれた皆さんに感謝しています。私は戦闘のため故郷を離れなければならず、学校に行く機会がありませんでした。今では、字の読み書きができるようになって幸せです。今後も継続的に支援してもらえれば嬉しいです。」

カデジャさん(33歳)

3. ハガキを回収したら

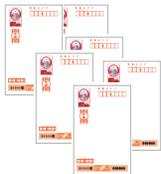
【重要】日ユ協連への送付方法とお願い

ポイント1

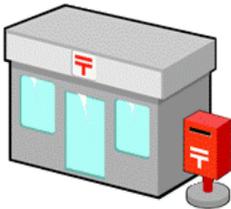
回収したハガキは最寄りの郵便局で切手に交換してください。

※1000円切手が望ましいです。ご協力お願いいたします。

ハガキ



郵便局



切手



ポイント2

報告書は必ずご提出をお願いいたします。以下3点を日本ユネスコ協会連盟事務局にお送りください。

1. 切手 (ハガキ)

2. 実施報告書 (P10)

3. 掲載誌

市報や新聞に本キャンペーンについて掲載されましたら、コピーをご提出お願いします。

4. 感謝状申込書 (P11) 任意

実施報告書と感謝状申込書は会員ページからダウンロード可能です。

(11月中旬以降を予定)

<http://unesco.or.jp/support/member/>

郵便局で切手に換えて、「ゆうパック」着払い(1回に限り)でお送りください。

【送付先】

〒150 - 0013

東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命ビル12F

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
ユネスコ協会 書きそんじハガキ係

4.ご提出をお願いしたい書類

資料2 感謝状申込書

必要事項を記載いただき、本申込書を日本ユネスコ協会連盟 海外事業部宛に
FAX(03-5424-1126)お願いします。

感謝状(A4サイズ)は貴協会宛てに一括でお送り致します。
大変お手数ですが、宛名をご記入の上、ご協力いただいた団体様・学校様など
にお渡しいたしますよう、お願い申し上げます。

※恐れ入りますが、お宛名は、貴協会でご記載お願いします。

依頼日 201 年 月 日

到着希望日 201 年 月 日

団体名 _____

担当者名 _____

送付先住所

電話/E-mail _____

寺子屋感謝状 _____ 枚



【寺子屋感謝状イメージ】

5. 書きそんじハガキ・キャンペーンQ&A

よくある質問をまとめてみました。

<受け付けているものについて>

Q1. 書きそんじハガキとは何ですか？

A:ポストに投函されていない未使用の郵便ハガキ(切手が含まれた官製ハガキ)のことです。

年賀はがきの場合、消印がありませんが、投函されたものは書きそんじハガキになりません。「宛先不明」や「不明により不着」と書いてあるハガキも同様になりません。

Q2. 書きそんじハガキ以外にも募金になるものはありますか？

A.未使用切手、図書カードなどのプリペイドカード、図書券、株主優待券などの商品券も募金になります。交換した切手とともに送り下さい。

Q3. 使用済み切手や衣料品は回収していますか？

A.使用済み切手や衣料品は現金化が難しいので、回収していません。

Q4. 使いかけのテレホンカードやプリペイドカード、図書カードは受け付けていますか？

**A.未使用のものをお願いします。
申し訳ありませんが、使い途中のものは受け付けられません。**

これであなたも
書きそんじハガキマスター!!



<キャンペーングッズや送付方法について>

Q6. 書きそんじハガキ回収箱は指定のものを使わなければいけませんか？

A.各ユネスコ協会で工夫を凝らしてお作りいただいて結構です。

Q7. 現金をはがきと一緒に「ゆうパック」で送ってもいいですか？

A.現金は、「ゆうパック」では送れません。別途、所定の振込票（手数料不要）を使って郵便局からお振込みください。

Q8. 回収したはがきは どうやって送りますか。

**A.郵便局で切手に換えて、「ゆうパック」着払いで送ってください。
送付の際、切手に交換した際のレシートのコピーを添えて、1回でお送り下さい。**

Q9. 協力団体や学校が直接日ユ協連にハガキを送る場合も着払いにしてよいでしょうか？

**A.原則として、ユネスコ協会に取りまとめてください。
ただし、多数のハガキの場合は、個別にご相談下さい。**

Q10. 協力団体・学校などへの感謝状はいつ発行してもらえますか？

**A.12月の「ユネスコ協会便」に申込書を封入しております。必要事項をご記入いただき、申込書を受け取りましたらお送りします。
なお、お手数ですが感謝状の「宛名」は貴協会にてご記入下さい。**

Q11. 活動費はいつ振り込まれますか？

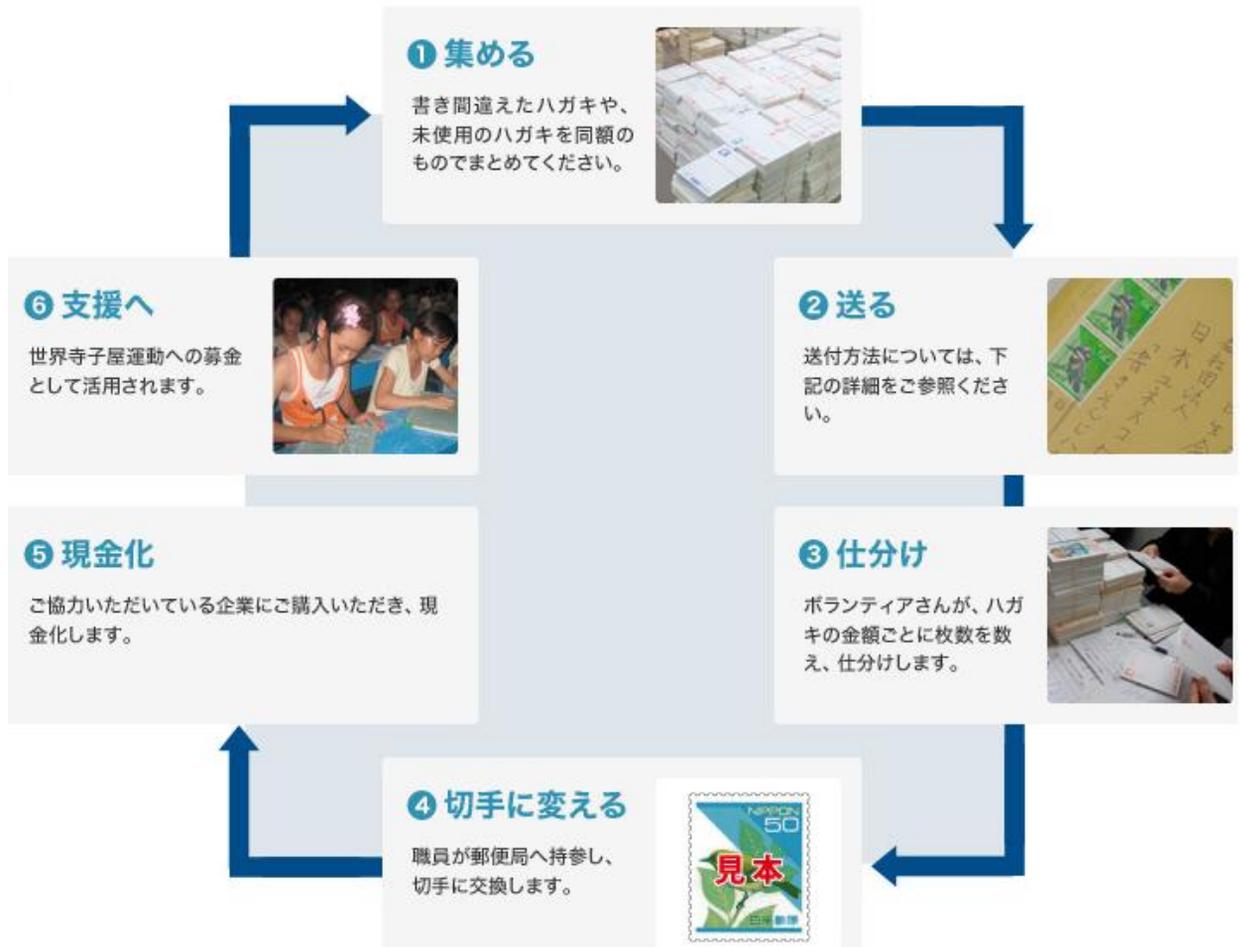
**A.2018年3月末日までにお振込みします。
なお、添付書類に不備等があれば、個別に連絡させていただきます都合上、入金が遅れる場合があります。**

Q12. 送付した枚数と日ユ協連から送られてくる受領枚数が違うのはなぜですか？

A. 切手部分が汚れていたり、消印が押されているもの（年賀状で投函してしまったもの）が混ざっていることがあるので、枚数が違うことがあります。

Q13. ハガキはその後どのようにして、募金になるのでしょうか。

支援までの流れ



©Dentsu



©Dentsu

回収方法に困ったら、日ユ協連に聞いてみよう！

<ご参考>書きそんじハガキを多く集めるコツ

■ハガキを多く集めるコツ

キャンペーンに参加したユネスコ協会に、どんな工夫をしているかアンケートにご協力いただいた。その中から、効果的な方法を以下に紹介する。今年のキャンペーンではぜひ参考にしてほしい。

①マスコミ(新聞、市広報誌、ラジオ、ローカルテレビなど)に取り上げてもらった。

広報活動で活用したメディアの種類:

- ・新聞
- ・ラジオ
- ・市報
- ・タウン誌
- ・学校の掲示板
- ・講演会・イベント開催時(チラシ配布)
- ・地元のフェスティバルに参加時(チラシ配布)
- ・企業への封書にチラシを同封

②小中学校へグッズを送った、直接出向いて説明した。回収ボックスやポスターの設置をお願いした先:

- ・学校関連(幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校、特別支援学校、教育委員会、校長会等)
- ・公共施設(公民館、役所、病院、ロータリークラブ、文化施設、道の駅、ショッピングセンター、サービスステーション等)
- ・企業・関連団体

③回収後の結果報告やお礼を充実させた。

- ・小学校、キャンペーン協力へのお礼案内を市報に掲載した。
- ・タウン誌に今年度の結果報告掲載を依頼している。数年前の記事を頼りに送ってくれる方もいた。
- ・学校に訪問し、委員会や児童会、生徒会で取り組んでもらった。4月に感謝状を各校に届ける予定。その際昨年同様新聞社を呼ぶ。
- ・回収箱付近にポスターや昨年度報告書のコピー、感謝状コピーを掲載。
- ・書きそんじはがきを受け取る際、感謝状とともに記念写真を撮り、今後のPRに使用する。

■成果のあったユネスコ協会では...

鹿児島ユネスコ協会

県内学校、ロータリークラブ、地方自治体、企業、鹿ユ協関係者合計1500か所にチラシ、回収ボックスを送付して協力を依頼。

テレビ放映、ラジオ放送、新聞掲載、記者会見などを通じてメディア広報にも力を入れている。

今年度はカンボジア事務所職員の後援会、鹿児島県副知事の訪問があり、例年以上に集まった。

富山ユネスコ協会

12月初頭にはキックオフ会議を行い、理事17名が富山市内の小中学校を手分けして担当し、協力依頼とグッズを手渡すために直接訪問する。それ以外の学校や地元企業などへはオリジナルで依頼レターを製作し、200部程度を郵送。また、メディア(新聞)には正月に直接訪問し、「高山市民時報」及び「中日新聞」に掲載依頼した。

大分県ユネスコ協会連盟

書きそんじはがき集計作業会の際にタンス遺産ムービーを上映したり、ラジオ番組出演の際にタンス遺産の歌をオンエアした。メディアにもお願いし、地元新聞への掲載や地元ラジオ局に出演し呼びかけを行うなどした。

■その他、効果があつた呼びかけ方法

- ・回収ボックスとポスターを一体化することでアピールできた。手作りポスターを活用した(久慈)
- ・校長会で事前に依頼したことで学校での回収率があがった。設置箇所も増えた(塩釜)
- ・H28年9月に送付された「2015活動レポート」を小中学校へ配布したところ反応がよかった(白河)
- ・パンフレットの縮小版を作成し、ポケットティッシュにいれて配布・新聞での呼びかけで遠隔地からも書きそんじはがきが寄せられた(彦根)
- ・企業や学校に設置し、書きそんじはがきの用途、そのことによってよいことをしているという意識を持ってもらった。(忍野)
- ・キャンペーンに寺子屋を強調したところ、紙芝居を作成して協力してくれた小学校があった。はがき、募金とも成果があつた(四街道市)
- ・総会にて感謝状を贈呈した団体や協力者からさらに多くのはがきが集まった(学び舎江戸東京)
- ・早い段階で地域情報誌に掲載した結果、例年より多くの協力が得られた(千歳)
- ・J:COMIに取材を受け放送された。そのおかげか例年の倍近くの枚数が集まった(杉並)

～キャンペーン2017報告書より抜粋～



<ご参考>

南三陸の森 希望のポスト ～継続的にご支援いただくために～

継続的に書きそんじハガキの回収にご協力いただくための「希望のポスト」をご紹介します。地元の企業にご協力いただき、設置しませんか。

書きそんじハガキ回収ボックス「希望のポスト」。このポストは、被災地・南三陸の森の「間伐材」で、書きそんじハガキポストをデザインしました。

被災地の復興支援と世界寺子屋運動を結びつけた「希望のポスト」。

南三陸の人々からは、「世界から受けた支援への恩返しができるうれしい」「子どもたちが町の自然を誇りに思える機会になった」などの声が集まり、被災地の心の復興にもつながっています。

ポストに投函された書きそんじハガキによる募金は、世界の学びにチャンスを広げます。



④置く場所を選ばない小型サイズ。
¥8,000 (送料・郵込) 幅200×奥行110×高さ240 (養生1mm)

※中型サイズは5個一口、小型サイズは、10個一口でのご協力をお願いします。

※若干のデザイン変更の可能性がります。



⑤受付やデスクなどに置く標準サイズ。
¥29,800 (送料・郵込)
幅300×奥行300×高さ330 (mm)

⑥会社や公共施設に! 設置台つき大サイズ。
¥99,800 (送料・郵込)
幅330×奥行360×高さ1320 (mm)

名前やロゴがのこせる寄贈プレート付きです。 ※プレートサイズはポストの種類によって異なります。

寄贈
国際ソロプチミスト〇〇

寄贈
〇〇〇ユネスコ協会

寄贈
杉板高校10期生一同

寄贈
YUKO NAKAMURA

南三陸の森 希望のポストお申込書

希望のポスト発注申込書
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 行

下記のとおり、発注します。

1.発注数（単価は内税）

- A. 99,800円 × ___個 = _____円
B. 29,800円 × ___個 = _____円（5個一口でご協力お願いします。）
C. 8,000円 × ___個 = _____円（10個一口でご協力お願いします。）

2.寄贈（設置）先、およびポストへの寄贈（設置）者名

※右のようにお名前が入ります。

※複数ご発注の場合には、発注個数分の情報を別紙にご記入ください。

寄贈（設置）先：

住所：〒 _____

ポストへの寄贈（設置）者名：

3.ご発注者様

会社・団体・個人名
ご担当者名（会社・団体のみ）
住所 〒 _____

電話 _____ FAX _____
メールアドレス _____

4.お振込先 ※入金確認をもって、発注とさせていただきます。

- 銀行：ゆうちょ銀行 019店（ゼロイチキューテン）当座預金 0047320
口座名義：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
 郵便局：00100-5-47320 口座名義：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

返信先 FAX:03-5424-1126

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 希望のポスト係

〒150-0013東京都渋谷区恵比寿1-3-1朝日生命恵比寿ビル12階

TEL:03-5424-1121 FAX:03-5424-1126

e-mail: nfuaj_web@unesco.or.jp

ポストをご希望の方は、
日本ユネスコ協会連盟宛に

FAX（03-5424-1126）にて
お申込お願いします



●ご注文いただいてから、納品までは約1ヵ月いただいております。

<ご参考>

寺子屋リーフレット制作プロジェクト ～小・中・高校生向け学習～

主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

共催：一般社団法人デジタル表現研究会(D-project)

株式会社教育新聞社



寺子屋リーフレット制作プロジェクトとは・・・

「ユネスコ世界寺子屋運動」を学習題材として、子どもたちが1年間にわたるプロジェクトの中で、非識字という世界の課題を知り、課題解決の方法について考え、身近な地域で行動を起こすプロジェクト型の学習活動です。

★プロジェクトのホームページ：

<http://www.unesco.or.jp/support/pj/>

プロジェクト参加の流れ(学校)

5月～6月：参加校募集

調べる

児童生徒が「識字の問題」「ユネスコ世界寺子屋運動」について、ウェブサイトや地域ユ協等から学ぶ。

考える

表現する

自分たちにできるアクションの一つとして、書きそんじハガキ回収を呼びかけるリーフレットを作る。寺子屋のどのような写真を選び、どのようなメッセージを付けるかなど、制作過程で多角的な力をつける。

まとめる

発信する

リーフレットを使って、地域に書きそんじハガキ回収を呼び掛ける。

行動する

「リーフレットコンテスト」(翌年2月)に、学校代表作品を応募する。

社会に貢献

ユネスコ協会等に回収したハガキを寄附する。

(3月)リーフレットコンテスト結果発表。最優秀賞作品は、「翌年度」の日ユ協連書きそんじハガキ・キャンペーンのリーフレットの「素案」として活用される。

世界とつながる

コンテストへの応募・ハガキ等の寄附をした参加校は、学校名が翌年に建設される寺子屋の銘板に記載される。



地域の学校に、国際理解教育やボランティア活動のひとつとして、ユネスコ協会・クラブの皆さまから先生方にぜひご提案ください。

詳しくは、上記ホームページまたは次頁お問い合わせ先まで。

2016年度「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」
リーフレットコンテスト 日本ユネスコ協会連盟賞(最優秀賞)



北海道札幌平岸高等学校1年(当時)
村本 菜摘さんの作品

■本プロジェクトに関するお問い合わせ先(2017年度)

日本ユネスコ協会連盟 寺子屋リーフレット制作プロジェクト係 宍戸
TEL:03-5424-1121 FAX:03-5424-1126 Eメール: shishido@unesco.or.jp
住所:〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階